

時の動き

対話でしか平和の道はない

ノレの会 尾澤 邦子



平昌冬季オリンピックピック

「南北・海外の出会いによって、平和統一への実感を確信した」と、韓国の平昌（ピョンチャン）で行われた冬季オリンピックの南北共同応援に参加してきた在日韓国人の青年はにこやかに話した。2月9日の開会式で、朝鮮半島の南北選手団は統一旗を掲げて合同入場。南北選手による聖火リレー、女子アイスホッケー―南北合同チームの結成、芸術公演、テコンドー―演武など、おおいに盛り上がった。

キャンドル革命によりパク・クネ政権を倒し、ムン・ジェイン政権を誕生

させた韓国民衆。ムン大統領はトランプ米大統領と電話で協議し、オリンピック・パラリンピック期間中の米韓合同軍事演習を中止させた。そしてオリンピックを契機とし、南北首脳会談、米朝首脳会談の開催が合意された。

朝鮮半島の平和

2月24日に東京の文京区民センターで行われた「3・1朝鮮独立運動99周年、止めよう！ 安倍政権が煽る米朝戦争の危機」という集会で、韓国からゲストとして来日した韓国進歩連帯常任代表のハン・チュンモクさん

は、こう話した。「70年間アメリカに抑えられ完全封鎖されていた北朝鮮。小さな国だが、核とICBMを持ち、アメリカやロシアと対等なレベルに高まった。最終的には対話と交渉によって解決できるという希望を私たちは持っている。南と北が和解と協力で南北首脳会談に向かうのか、トランプや安倍が願っているような韓米日合同軍事演習を行って、戦争への道へ突き進むのか。朝鮮半島の平和は東アジアの平和とつながっている。日本の民主主義を実現することともつながっている」と。



4月27日、板門店で南北首脳会談が行われた

安倍政権の朝鮮敵視政策

安倍政権は朝鮮民主主義人民共和国（朝鮮）に対し「圧力しかない」と、敵視し続けてきた。またこの間、「米

韓合同軍事演習は予定通り実施すべき」「ほほえみ外交にだまされるな」

など、対話局面に水を差し、妨害してきた。「制裁によって朝鮮の政策が変わったというのは誤り」と話してくれたのはフオトジャーナリストの伊藤孝司さん。3月31日にたんぼぼ舎で行われた「米国こそが朝鮮半島の戦時状態を望んでいる」と題する講演会で話してくれた。

「朝鮮は金日成の時代から非核化について話されてきた。非核は朝鮮指導者の遺訓だ。今までは米による先制攻撃を受ける可能性があった。攻撃させないようにするための実験だった。ICBMの完成により、対等に話し合いができるようになった。韓国・中国との関係改善にいつきに進んだ」と話した。日本から見ると孤立した貧しい国に見えるが、国連加盟国のうち162カ国との国交があり、経済発展もめざましい。

「北の脅威」を煽るな

朝鮮の日本人妻の取材を続けるフオトジャーナリストの林典子さんも同じように話していた。中東やアフリカなどで取材し、怖い思いをすることが多いが、朝鮮では安心して取材ができたと話す。日本の朝鮮報道は一つの型にはめ込んで報道しているようだと言う。現地取材では人々の暖かさを感じるし、また日本との関係が良くなつてほしいと望む若者が多いとも話していた。

韓国で暮らす日本人の友人が、たまに里帰りすると「危ないから帰ってきなさい」と言われると憤慨していた。普通に暮らしているのに、日本ではなぜ「北の脅威」とか煽るのかと。日本は朝鮮敵視政策をやめ、国交正常化交渉を始めるべきだ。対話でしか平和の道はないのだから。

（おざわ くにこ）